

社会福祉法人 神戸いのちの電話 事業案内

2023 年度事業報告・2024 年度事業計画

ごあいさつ

この数年、パンデミックを引き起こした新型コロナウイルス COVID-19 感染も、昨年 5 月から感染法上の類型が第 2 類から第 5 類に変更され、世間では終息したかのような状況となりました。神戸いのちの電話もインフルエンザと同様になったコロナ感染を気にしながら、ようやくコロナ前に近い諸活動に戻ろうとして日常の歩みを進めています。

2023 年度も、兵庫県、神戸市をはじめ多くの支援団体の皆様、維持会員・賛助会員の皆様、また相談員、研修委員、役員、評議員の皆様から、私どもの活動に対して、それぞれのお立場で多大なご支援、ご奉仕、ご協力を賜りましたことに厚く感謝申し上げます。

2023 年の年間自殺者数は全国統計で 21,837 人（前年比 44 人減）であったという報告がありました。30～70 歳代の男性の自殺が増え、逆に女性が減ったということですが、若年層では女性の自殺増が目立つ結果となり、特に学齢期の子が顕著に増えたとされています。

2023 年度の神戸いのちの電話は年間 13,586 件の電話相談を受けました。その数は、昨年より 989 件増加し、コロナ以前の 13,062 件（2019 年）を超えました。コロナ関連の如何に関わらず、依然として多様な要因によって不安に襲われ、多くの悩める方々が社会におられることを示しています。

神戸いのちの電話はこのように大きな社会的意義を持つ活動でありながら、継続されるいくつかの課題をもって、日々活動を続けています。目標である 24 時間 365 日の電話受信の実現には、まだまだクリアすべき課題があり、深夜帯での電話相談の拡充を目指していきます。そのための相談員の発掘、養成と定着には更なる努力が必要です。また、若者の電話離れ、SNS への依存という現象を受け、青少年のネット相談という需要への対応も継続課題です。そして、財政の健全化は依然として私たちの大きなテーマです。

このような課題を持ちつつ、長く大切にしてきた理念と活動を継承し、生きづらさの中を生きる多くの人々に寄り添うことができれば、と願っています。

神戸いのちの電話は皆様のお支えにより、開局 50 周年に向かって活動を続けることができます。今後もこの活動の維持発展のために、皆様の温かいお励ましとご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。

社会福祉法人 神戸いのちの電話
理事長 水野 雄二

I . 2023 年度 事業(活動)報告

電話相談活動

- ① 2023 年度は、コロナ以前の活動に戻しより活性化促進するという積極的な取り組みを続けて、365 日 24 時間化への目標へ向かうことを再確認することができた。
- ② 2023 年度の通常電話受信件数は 12,199 件、10 日フリーダイヤル 474 件、毎日フリーダイヤル(月水金受信)913 件で総受信数は 13,586 件(前年度比 989 件増)で、大幅に昨年度総受信数を超えて受信することができた。相談員の積極的な活動参加によつての受信数の増加である。連盟データ(2023 年1月～12 月)による自殺傾向率は 6.8%であった。
- ③ 在籍相談員数は 2023 年 4 月 1 日現在 148 人(37 期新認定相談員 10 名、認定式・更新式 4 月 15 日)

継続研修(グループ・スーパービジョン)など

- ① 相談員全員が 13 グループに分かれて(相談員初年度 37 期は1グループ、養成講座 38 期は 2 グループ)、事例をもとに毎月(8 月は休み) グループ・スーパービジョンを行い、ハンドブックの読み合わせなど基本事項の確認や電話相談に臨むスキルの研鑽を実施した。また電話相談の悩みなどを共有した。
- ② 自殺予防フリーダイヤル研修は継続研修時に危機事例のロールプレイを行い、自分のグループで受講できなかった場合、他のグループに参加して全員が受講した。
- ③ 全相談員受講の全体研修は、事例を全員で共有して話し合い、1 人で問題を解決していくという聴き方ではなく、相談者の複雑な悩みにいつでも誰かがそばにいて聴く活動であることを確認した。全員が受講するために土曜午前、平日午後、夜間と 3 回開催し、参加できなかった相談員は DVD で受講した。

養成講座

- ① 38 期 2022 年度応募の 38 期養成講座受講生が、1 年間研修委員のモニターによる電話実習を含め養成研修(グループ・スーパービジョン)を重ねて 9 名が新相談員として認定された。
- ② 39 期 2023 年度応募の 39 期養成講座受講生が応募面接を経て受講した。1 日研修、倫理事項や電話相談についての講義や電話相談ロールプレイ、研修委員のモニターによる電話実習を経て 13 名が 2 年目受講生となった。

公開講座

- ① 39 期養成講座受講者募集を目的として開催。応募に際して 8 回の講座を 6 回以上受講することになっている。

名 称	『生きづらさの中を生きる』(8 回連続講座)	
5 月 27 日	桃田茉莉『ストレスと PTSD のケア』	受講： 49 人
6 月 3 日	藤井美和『寄り添いに求められるもの』(リモート出講)	受講： 58 人
6 月 10 日	花岡尚樹『無力な私にできる傾聴とは』	受講： 59 人
6 月 17 日	藤田裕一『アドラー心理学とストレングス視点を活かした相談支援』	受講： 53 人
6 月 24 日	関本雅子『ターミナルケア「看取る」とは』	受講： 57 人
7 月 1 日	井出浩『心の病について』	受講： 51 人
7 月 8 日	川喜田好恵『今、ジェンダー(性)の抱える問題とは』	受講： 45 人
7 月 15 日	岡田由美子『いのちについて考える 一周産期医療の現場から』	受講： 47 人

- ② 40 期養成講座受講者募集に向けての説明会を兼ねて開催。

名 称	“あなたのそばにいます” ～生きることの辛さ悲しさに寄り添う～	
2 月 24 日	有田モト子 『いのちの電話の活動に大切なことは』	受講： 45 人

広報活動

広報誌 84 号(6 月)と 85 号(12 月)を発行し、支援者や関係団体に送り、学校関係に連盟の自殺防止のポスターと共に配布して、いのちの電話の活動の支援や周知促進を図った。

その他の活動

- ① コロナ禍で開催されなかった、神戸市須磨区の地域交流イベント「おいでやすカーニバル」が開催され、9 月 23 日に沢山の方に立ち寄って頂き、神戸いのちの電話支援バザーを開くことができた。収益を寄付金とした。
- ② 10 月26日～28日 全国のいのちの電話の相談員が集う、電話相談員全国研修がふくしまいのちの電話の主催によって、福島県郡山市で 3 年ぶりに開催され神戸から10人の相談員が参加した。東日本大震災での放射能汚染立入禁止が除外された地域の見学や、放射能汚染による女性と子供の心理的被害の調査を続けている研究報告等の講義によって学びを深めた。
- ③ 40 年にわたって神戸いのちの電話の活動を支えて頂いた研修委員の白石大介先生が 8 月に亡くなられて、1 月 8 日に役員、研修委員、相談員の 60 名が集い、これまでの足跡をたどり思い出を語り合う「白石先生を偲ぶ会」を開催した。
- ④ 冬の公開講座(40 期養成講座受講者募集に向けて)に横浜いのちの電話のスーパーバイザー有田モト子氏を迎えたので、同日の午前中に「ムズカシイ電話をどう受ける」のテーマで相談員向けの研修会を開催した。関西や名古屋からの参加もあり 65 名が受講した。

Ⅱ. 2023 年度 決算報告

資金収支計算書 (単位:円)

	科 目	決 算 額
収 入	事業(養成講座等)収入	774,000
	補助金収入	9,081,078
	寄付金収入	3,474,703
	維持・賛助会収入	1,826,320
	その他の収入	461,611
	収入の部合計	15,617,712
支 出	人件費	4,791,065
	事業費	10,039,778
	継続研修等経費	2,165,330
	公開・養成講座等経費	1,321,094
	相談員活動・研修費	332,600
	交通費・郵便通信費	3,229,812
	印刷製本・図書費	688,415
	活動維持費	2,302,527
	事務費	363,000
	支出の部合計	15,193,843
収 支 差 額		423,869

貸 借 対 照 表

2024年3月31日現在 (単位:円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
流動資産	14,343,014	流動負債	613,562
現金預金	6,871,936	未払金	138,563
未収入金	7,471,078	前受金	373,000
固定資産	13,835,117	預り金	101,999
基本財産	10,000,000	固定負債	0
定期預金	10,000,000		
その他の固定資産	3,835,117	負債の部合計	613,562
器具及び備品	781,447	純 資 産 の 部	
ソフトウェア	154,330	基本金	10,000,000
備品等購入積立資産	2,000,000	備品等購入積立金	2,000,000
周年行事積立資産	899,340	周年行事積立金	899,340
		次期繰越活動増減差額	14,665,229
		(うち当期活動増減差額)	△ 79,375
		純資産の部合計	27,564,569
資産の部合計	28,178,131	負債及び純資産の部合計	28,178,131

Ⅲ. 2024 年度 事業(活動)計画・予算

一人ひとりが「いのちの電話」の活動の原点に立ち返り、元来の目標である 365 日 24 時間化への足掛かりとして、次の事項を重点として取り組みます。

- ◎ 電話相談活動の充実と促進
相談員一人ひとりの意欲を高め積極的な活動を促進して、第 1、第 5 の金曜日も深夜帯を行えるように活動の充実を進める。
- ◎ 相談員の心のケアなど、研修体制
複雑化しているコーラーの悩みや不安に寄り添えるスキルをはぐくみ、攻撃的な電話からも自分を守る力を養っていく。FD研修を全体研修と同じような開催にして、相談員間の気持ちの交流を図りお互いの振り返りにつなげて、相談員の心のケアを進める。ハラスメント研修も開催する。
- ◎ 公開講座、養成講座など
公開講座:様々な問題が複雑に絡まる現実を踏まえた連続 8 回の公開講座を行う。
養成講座:39 期は養成研修(年間 10 回)、電話モニター研修も行う。40 期は自発的なボランティアの姿勢、倫理事項の確認や「傾聴」の姿勢を身につけて、相談員として活動が行えるよう育成する。
現実社会の中での他方面の弱者支援の活動を学び心のつながりを広げる講演会も開催する。
- ◎ 財政の安定化
兵庫県や神戸市の公的な補助金の確保や民間の補助金への積極的な申請を軸として、維持会費などによる安定的な財政を保つことができるように体制を整える。

2024 年度予算 (単位:円)

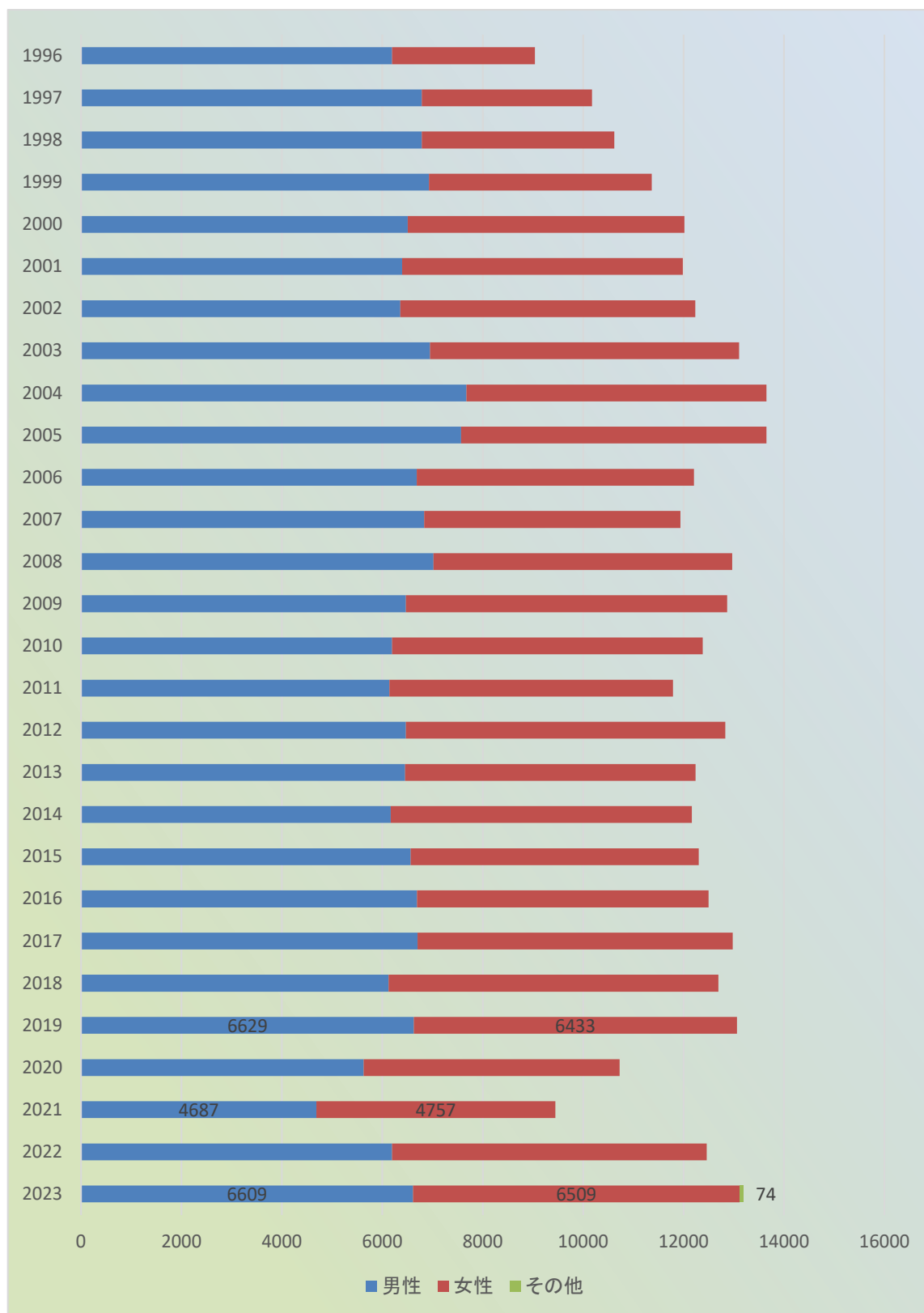
	科 目	予 算 額
収 入	事業(養成講座等)収入	800,000
	補助金収入	8,250,000
	寄付金収入	2,500,000
	維持・賛助会収入	1,850,000
	その他の収入	350,300
	収入の部合計	13,750,300
支 出	人件費	4,582,300
	事業費	8,970,000
	継続研修等経費	1,700,000
	公開・養成講座等経費	1,050,000
	相談員活動・研修費	330,000
	交通費・郵便通信費	3,000,000
	印刷製本・図書費	640,000
	活動維持費	2,250,000
	事務費	198,000
	支出の部合計	13,750,300
	収 支 差 額	0

役 員 名 簿

理事長	水野 雄二
理 事	濱 浩一
	井出 浩
	宗行 孝之介
	藤井 薫
	中道 京子
	宮里 哲秀
評議員	横山 政夫
	川崎 厚志
	飛田 雄一
	井上 真二
	安行 英文
	上谷 佳宏
	南部 眞理子
	高内 憲一
	石川 益子
監 事	山根 泉
	上杉 徹

Ⅳ. その他

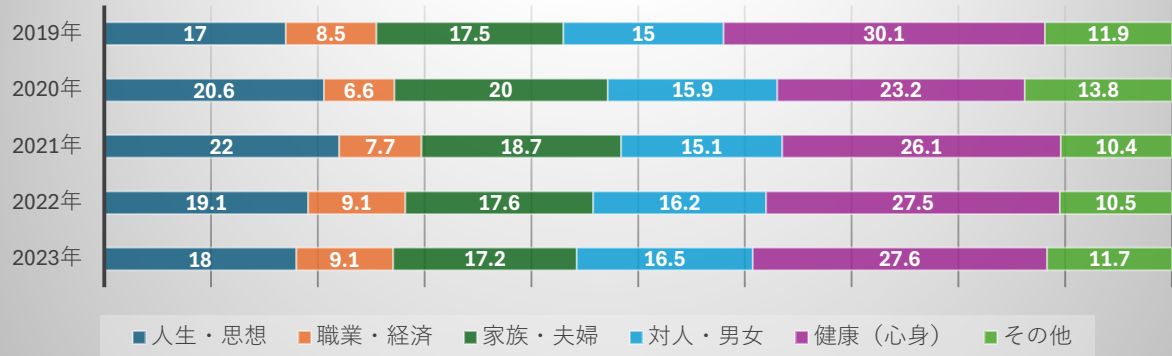
年間総受信件数の推移(1996～2023年)



受信件数は13,192件で、2022年に引き続き増加し、コロナ禍前の件数に戻

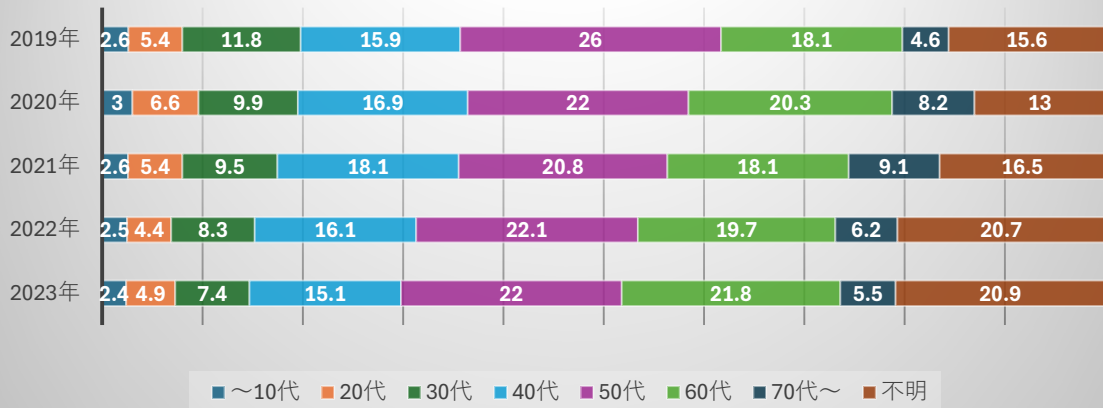
(電話相談を開始した1981年から2023年までの累計)
 男性284,345件 女性221,142件 その他74件 合計505,561件

相談内容の割合



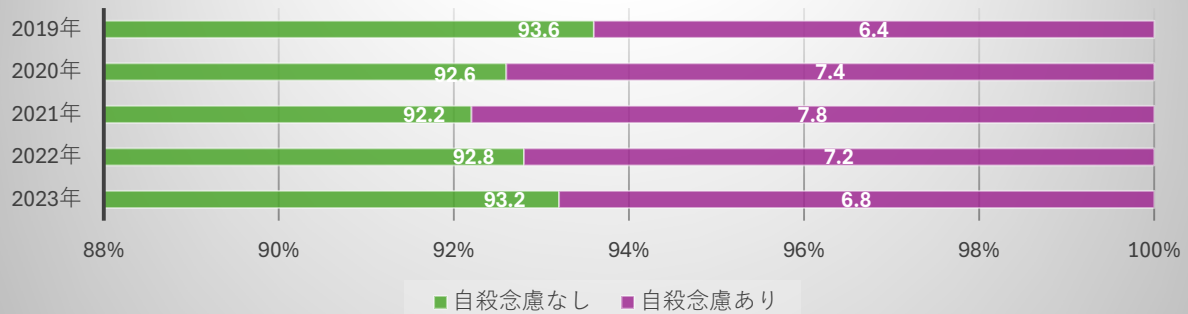
2021年に22%と増加傾向にあった人生・思想に関わる電話の割合が、2023年では18%と2019年の17%とほぼ同様の割合である。

相談者の年代別割合



70代以上の割合は2019年4.6%から2021年9.1%とコロナ禍で大きく増加していたが、2023年5.5%となっている。

相談電話での自殺念慮の有無

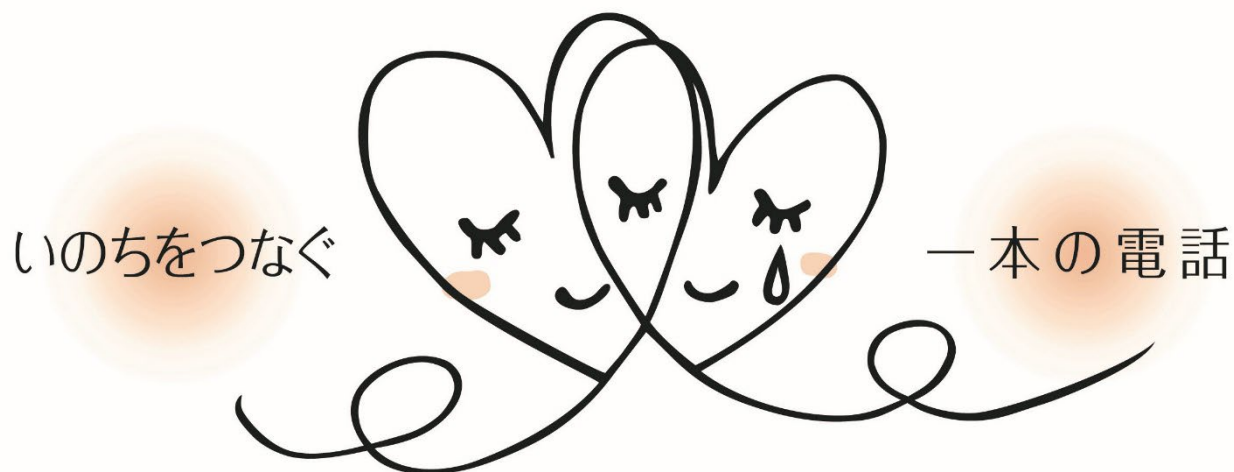


自殺念慮のある電話の割合は、2019年6.4%から2021年7.8%と増加していた。2023年には、6.8%とコロナ前に近づいている。

	神戸いのちの電話 研修委員
藤井 薫	元頌栄短期大学 社会福祉士 精神保健福祉士
井出 浩	浅野神経内科クリニック 精神科医
本多 雅子	神戸臨床心理の会
戸田 みな子	カウンセリングオフィス神戸同人社 臨床心理士
岩崎 久志	流通科学大学 公認心理師 臨床心理士
岡田 由美子	たかみやこころのクリニック 公認心理師 臨床心理士
阪田 憲二郎	NPO 法人居場所 臨床心理士 精神保健福祉士
都村 尚子	関西福祉科学大学大学院教授
長谷川 泉	神戸親和大学 公認心理師 臨床心理士
原口 美佐代	大阪バイオメディカル専門学校 社会福祉士 精神保健福祉士
南部 眞理子	神戸市健康局 臨床心理士
清水 智子	関西保育福祉専門学校 公認心理師 臨床心理士
吉岡 由美	武庫川女子大学 公認心理師 臨床心理士 精神保健福祉士

後援会メンバー

会 長	雀部昌吾(バンドー化学)	世話人	藤尾益也(神明)
副会長	中道基夫(神戸 YMCA)	〃	高嶋良平(高嶋酒類食品)
世話人	瀧川博司(兵庫トヨタ)		
〃	寺本 督(淡路屋)		



「神戸いのちの電話」の活動は 皆様の温かいご支援に支えられています

神戸いのちの電話は、孤独な中で悩みを抱えて助けを求めている人の心に電話を通して寄り添い、「あなたを決してひとりにしない」との想いをもって日々努力しています。私たちの活動は多くのボランティア相談員の奉仕に支えられていますが、電話相談活動を円滑に運営するためには、年間 1,000 万円を超える経費が必要です。兵庫県や神戸市、他にもさまざまな団体の補助金もありますが、維持会員や賛助会員および一般寄付による支援がなければ運営できません。お一人でも一団体でも多くのご支援を頂き、今この時間にも生きづらさの中に不安や悩みを抱えている人々の隣にいて、支えになる活動を続けていきます。ご支援をよろしくお願い致します。



発行年月	2024 年 6 月
発行者	社会福祉法人 神戸いのちの電話
発行責任者	理事長 水野雄二
住所	〒650-8691 神戸支店郵便私書箱 1103 号
電話／FAX	078-371-4405／078-371-4355
E-mail	kind4343@viola.ocn.ne.jp
公式 Web サイト	https://kobe-lifeline.org